

# ICT 機器を活用した実例

衛生看護科

## 1 はじめに

GIGA スクール構想とは、Society5.0 の時代を生きる子供たちのために、公正に「個別最適化され、創造性を育む学び」を実現させる国の取組みで、主には、2023 年度までに「1 人 1 台の学習用端末（タブレットやパソコンなど）」と、クラウド活用（学習ツールなど）を前提とした「高速・大容量ネットワーク環境」を学校に整備する計画である。

学習指導要領の改訂に伴い、『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指し、教師の適切な指導と ICT 機器・環境整備の充実が不可欠である。

今回、ICT 機器を活用し、授業内容を分かりやすく伝えることと、生徒が能動的かつ創造的に学習に取り組めるようにすることを目指した、衛生看護科における ICT 機器活用法の一部を報告する。

## 2 生徒の実態

1 年生は中学校の授業でタブレット端末を活用していたという生徒もいる。現在、学校からの貸与により、全員がタブレット端末を使用できる状況にある。

2 年生は中学校の授業でタブレット端末を使用したことはほとんどない。1 年次は学校からの貸与により全員がタブレット端末を使用できる状況にはあったが、授業で活用したことはほぼなかった。現在は、全員がタブレット端末を購入し、授業でも活用している。

3 年生も中学校の授業でタブレット端末を使用したことはほとんどない。学校へのタブレット端末の持ち込みはなく、学校からの貸与もない状況だが、1・2 年次は学校からの貸与があり、授業でも活用していた。

今年度、1・2 年生は専門教科において、デジタル教科書を導入している。

## 3 活用実例

1 年生 人体の 構造と機能	授業で学んだ内容をリーフレットにまとめ、発表をした。 まとめる際に、教科書だけでなく、インターネットも活用して調べ、作成したリーフレットをパワーポイントに取り込み、発表をした。	
1・2 年生 基礎看護 (実習)	Google の共有ドライブにデモンストレーション動画を保存し、予習・復習に活用した。 演習の際は、グループで 1 台ずつタブレット端末を準備し、動画を見て何度も確認しながら技術の練習を行った。 生徒同士で援助の様子を動画で撮影し、客観的に見ることで、自分の言動の癖や工夫が必要な点に気づき、改善に繋げようと取り組む姿がみられた。	

<p>1年生 基礎看護 (看護概論)</p>	<p>グループワークでインターネットを活用し、看護理論家について調べ学習を行い、パワーポイントにまとめて発表をした。</p> <p>1年生の早い段階での授業だったが、それぞれコミュニケーションをとりながら、興味をもって調べ学習ができていた。</p>	
<p>2年生 疾病の成り立ち と回復の促進</p>	<p>ほとんどの生徒がデジタル教科書を使用し授業を受けており、コメント機能を使用し、デジタル教科書にメモをとっている生徒もいる。また、授業で使用するワークシートをPDF形式にしてGoogleの共有ドライブに保存しておくことで、授業前に各自のタブレット端末へダウンロードし、授業の際に活用している生徒もいる。</p> <p>授業の中で、1年次に学習した内容の確認が必要な際、デジタル教科書や検索ツールを活用して、すぐに調べる様子がみられるようになってきた。</p> <p>インターネットを活用し、検査や薬理作用についての調べ学習を行い、パワーポイントにまとめて発表をした。年間を通して調べ学習と発表を行い、アニメーション等を取り入れて凝ったパワーポイントを作成し、「調べたりまとめたりすることが楽しかった。」という感想が聞かれた。</p>	 
<p>2年生 成人看護</p>	<p>患者用のパンフレットを作成し、生徒同士で看護師・患者役となり演習を行った。その際、書画カメラを使用することで、パンフレットの内容や説明の工夫等を全員で確認ができ、意見交換がスムーズにできた。</p>	
<p>1～3年生 看護臨地実習 (校内)</p>	<p>令和4年度コロナ禍での校内看護臨地実習(2年生)のKYTの実習。</p> <p>どのような場面で、患者の事故に繋がる危険性があるのかを話し合い、実際に、その動画を撮影し、事故を防ぐための対策について検討した。</p>	
<p>確認テスト 家庭学習</p>	<p>Googleclassroomを活用し授業内容の確認テストを実施した。Googleclassroomを活用することで、自宅でもスマートフォンやタブレット端末を利用し確認テストやその振り返りが実施できる。生徒から「手軽に課題の確認・提出ができることで、学習に取り組みやすくなった。」という感想が聞かれた。</p>	

#### 4 考察

小学生や中学生でも、日常的にスマートフォンやタブレット端末を利用している状況が多く、生徒の方が教員よりも ICT 機器を使用することに対する抵抗は少ないように感じる。授業をとおして、生徒たちから“学ぶことが楽しくなった”，“学習に取り組みやすくなった”等の声が多く聞かれ、生徒たちにとって、授業でタブレット端末を活用できること自体が楽しく、映像や画像に合わせた音声などを使用することで、視覚や聴覚からの情報の幅が広がり、興味や関心を高めることができるため、効果的な学習に繋がっているのではないかと考える。また、生徒自身での看護技術実施の様子を録画し、録画データを確認することで技術の実施と振り返りの反復に多くの時間をかけることができるようになった。

教員側も、授業で ICT 機器を活用することで、紙媒体の削減や、板書やプリント配布の時間の軽減、看護技術の動画視聴により、デモンストレーション等の授業の準備にかかる時間を大幅に削減することができ、さらに、動画や音声等を取り入れた授業ができるため、授業の幅が広がり、授業の質も向上するのではないかと考える。

#### 5 おわりに

生徒たちは、ICT 機器を活用することに対する抵抗は少なく、授業での活用の幅が広がっているが、情報モラルに対する意識が低いように感じられる生徒も多く、入学後早期からの教育を徹底していくための工夫が今後の課題である。

授業中、手元にタブレット端末があることで、学習を終えているが覚えていなかったことや疑問に思ったことをすぐに調べられる状況にあり、学習に対する意欲の向上につながるという利点はあるが、それが知識の定着に繋がっているかは疑問である。

また、デジタル社会が進み、生徒たちのコミュニケーションもスマートフォンのなかで完結している状況も多いが、看護師は人を対象としていることを常に生徒に意識させながら授業を進めていくことを大切にしていきたい。

ICT 教育が浸透することで、教員側は配布物印刷の削減や授業の準備時間を低減できると考えられる一方で、授業中のトラブルにも対応できるようにスキルを身に付ける必要がある。

今後も、ICT 機器を活用することのメリット・デメリットを生徒たちにも理解させ、生徒たちが楽しく学べるような取組を続けていきたい。